



アスンシオン通信

シーズン 2

日付: 2026 年 1 月 29 日 no.42

発行者: 田邊紘起

Hola a todos ! Como están? 早いもので今年度もあと2ヶ月ですね。一年間の仕上げは進んでいますか。やり残した事が無いようにラストスパート、頑張ってください。寒い冬をみんなの熱気で乗り越えましょう!

今回は、パラグアイにあるとっても大きな施設を紹介します。

パラグアイを支えるイタイフダム

みなさんは「クリーンエネルギー」という言葉を知っていますか。「クリーンエネルギー」とは、地球にやさしい方法で作られたエネルギー（電気）のことです。電気を作るためにはいろいろな方法があり、日本では「火力発電」といって燃料を燃やした熱を利用して電気を作る方法が一番多いようです。この火力発電は燃料を燃やした時に出る二酸化炭素などによって地球を温暖化させてしまうという問題があります。また、燃料には限りがあり、いつかはなくなってしまうという問題もあります。

一方、「クリーンエネルギー」は自然の力を使って電気を作る方法です。例えば、日光の力を利用した「太陽光発電」、風の力を利用した「風力発電」などがあります。それらは、発電後に環境に対して問題になるものが出てくることもなく、太陽や風がある限りずっと使い続けることができる方法です。ただ、自然の力を利用するため、その日その時の太陽や風の影響が大きく、安定して電気を作り続けることに課題があります。

今回は、そのクリーンエネルギーの中で、特にパラグアイに係する「水力発電」について紹介します。

世界で2番目に大きいダム

パラグアイとブラジルの間を流れるパラナ川に「イタイプダム」という世界で2番目に大きなダムがあります。



大きなすべり台のような水を流すゲート=イタイプダム

「ダム」というのは、川の流れをせき止めて水を貯める施設です。貯めた水をいろいろなことに利用するために作られます。例えば、大雨が降った時はダムから下流に流れる水を止めて洪水が起こらないようにします。逆に雨が降らない日が続いたら、ダムに貯めている水を流して川の水量が普段どおりになるように調節します。

でも、イタイプダムダムが作られた第一の目的は「水力発電」のためです。「水力発電」は、ダムに貯めた水が低いほうに流れ落ちる力を利用して水車を回し、発電する仕組みです。ここで作り出された電気は、電線を通して国中に送られています。

イタイプダムの上流には、世界最大の熱帯雨林「アマゾン」があり、水がたくさん必要なダムの環境に恵まれています。熱帯雨林とは、年間を通してたくさんの雨が降るジャングルのことです。降った雨は大きな川となり、その水を水力発電に利用すれば、ばく大な量の電気（クリーンエネルギー）を作ることができます。ちなみに、イタイプダムの下流には以前紹介した世界最大の滝である「イグアスの滝」もあります。

貯められる水の量は、三次にある灰塚ダム 5210 トンに対してイタイプダムは 290 億トン！ざっと計算して 500 万倍以上の量です。これは滋賀県にある日本最大の湖「びわ湖」より水の量が多いことになります。

一年間に発電する量は、日本全体の水力発電量 75 億キロワット（2022 年）に対して、イタイプダムだけで 1030.98 億キロワット（2016 年）、パラグアイが水力発電に力を入れていることがよくわかります。

パラグアイの人口は少ないので、このダムで作った電気で国内全ての電力をカバーすることができます。そのため、余った電気はブラジルなどに売っているそうです。

水をせき止める壁（堤防）の長さはおよそ8キロ！ 歩いて渡ると、端から端まで2時間はかかりそうです。

水という自然の力を発電に利用しているダムですが、2009年には嵐にみまわれて発電できなくなってしまったこともあるそうです。その時はブラジルとパラグアイの2国で6700万の人が停電の被害を受けました。どんなことでも完璧ということはなく、いろいろな問題に対する「**備え**」が大切ですね。

素晴らしい自然のパワーを使った水力発電は、自然豊かな南米ならではの工夫です。日本は島国で資源も少ないため、できることは限られているかもしれませんが、そうした中でも何か工夫できることを考え続けることが必要ですね。

タイトル写真について

「パラグアイのアサード」

「日曜日はアサードの日」というのは、多くのパラグアイ人の習慣で、朝早くから火を起し、かたまり肉をじっくりと焼きな

がらのんびり過ごしています。昼ごろに肉が焼きあがり、その肉を食べ、テレレ（冷たくしたマテ茶）を飲みながら家族や友達と話をして夜までゆっくり過ごすというのが、パラグアイ人の日曜日の過ごし方です。日曜日は大量に肉を食べるので、月曜日はあっさりとした野菜スープなどを食べてバランスをとるそうです。網で焼かれているのは全て肉です。日本のバーベキューとは様子が違いますね。

スペイン語・グアラニー語ひとこと講座

De verdad? (デ ベルダッ) En serio? (エン セリオ)

:本当に？

意外なことや信じられないようなことを言われたら、上のように反応します。すると、Si~ (スィー) 「そうなんだよ~」と話が盛り上がります。相手の話に相づちを打ちながら聞くことは、どこの国でも大切なコミュニケーションですね。

次回について

パラグアイの子供たちのお弁当をのぞかせてもらったので、みなさんに紹介します。日本の給食との違いがあるのでしょうか。お楽しみに。Chao chao ! Hasta la próxima vez!